

健康、安全支える自動車を

弘大とホンダ 共同講座開設

弘前大学は31日、弘前市の同大医学部大会議室で、ホンダ(東京)と共同で、

ドライバーの健康管理を支える次世代自動車の研究開発に取り組む「インテリジェント・モビリティ&ヘルス研究講座」の開設式を開いた。弘大が2005年から同市岩木地区で続ける



「岩木健康増進プロジェクト(岩木健診)」の健康ビッグデータと、ホンダの自動車分野の知見を組み合わせ、健康と安全を継続的に支えるサービスの実現を目指す。

共同研究講座は6月1日付で開設。同市の弘大健康未来イノベーションセンターを拠点に、29年5月までの3年間研究に取り組む。

ホンダは、25年から弘大の岩木健診などに参画。26年の岩木健診ではシミュレーターを使い、ドライバーのハンドルの回し方や上半身の動きなどのデータを集めた。

同講座では、ドライバーのアクセルやブレーキ、ハンドル操作など、車両から得られるデータや健康関連データ、人工知能(AI)

ドライバーの安全と健康を支える自動車の研究講座を開設した、弘大の福田学長(左から2人目)とホンダの今井執行役(同3人目)ら

やデータサイエンスを活用。日常の運転操作から身体機能の変化を捉えたり、

将来の健康状態の予測などの研究に取り組む。

開設式で福田眞作学長は「講座の開設を契機に、さまざまなテーマを見つけていきたい」とあいさつ。ホンダの今井隆志執行役は

「移動することで健康に前向きになれる社会を目指す。研究成果を人々の日常に役立つ価値に育て、弘前から日本へ、世界へと広げたい」と話した。

(佐々木彩乃)